

## 令和5年度ボランティア活動奨励賞受賞団体一覧

1	団体名	ケアラズカフェ モンステラ		
	代表者	山田 由美子		
	所在地	相模原市南区	活動開始時期	2016年11月
	活動分野	保健、医療又は福祉の増進		
	活動の概要	地域の居場所づくりとして自宅を開放し、介護に疲れた家族介護者（ケアラー）の情報交換をする場として、「ケアラズカフェ」を開設		
選考理由	<p>「住み開き」という自宅を開放した地域の居場所づくりの活動を、2016年から地道に続けてこられたことに敬意を表します。主催者自身の介護経験に伴う介護うつという問題からスタートした活動は、家族介護者同士の交流とケアする人をケアする場から、地域の高齢者の共食と健康支援の場、ヤングケアラー支援と啓発、地域の介護事業所との交流等、活動の幅も広がっていることも確認させていただきました。</p> <p>一方、特定のテーマに縛られることなく、だれでも参加でき、自分たちに出来るところから始めるという活動姿勢や赤字にならなければよしとする運営姿勢にも共感するものがありました。そして、「こういう活動をやってくれる人が増えてほしい」と応募理由に記載されているように、「私たちにも何かできるかもしれない」と感じさせてくれる地域の居場所づくりの活動として高く評価させていただきました。</p> <p>現在、子ども食堂や認知症カフェ等の活動が広がっていますが、開催場所の確保や会場維持費等が課題となっています。居場所を提供する「住み開き」という方法は、2009年頃から自宅や事業所の一部を開放する方法で、地域のコミュニケーションの場として全国各地で展開されています。団体が実施してきた「住み開き」という居場所づくりの活動をヒントに、様々な地域活動が県内各地で展開されることを期待します。</p>			
2	団体名	レインボーキャリア会		
	代表者	前田 暖子		
	所在地	座間市	活動開始時期	2011年4月
	活動分野	保健、医療又は福祉の増進		
	活動の概要	女性に特化した精神障がい者のセルフヘルプグループで、当事者を支える相談支援を実施		
選考理由	<p>神奈川県央地域の座間市において、2011年に女性の精神障がい者を対象としたメンタルヘルスケアワークショップを開始したことは先駆的と言えます。その後も、セルフヘルプ・グループとしての分かち合いや、相談活動を通じて、女性特有の課題などに配慮しながら、生活面や就労面などのサポートが地道に続けられています。そうした中で、代表者が精神保健福祉士や産業カウンセラーの資格を取得して支援機能を強化するとともに、ピアサポーターの育成を図る勉強会にも取り組み、さらに関係団体との多様なネットワークも構築するなど、専門性を有しながら多角的な支援を目指していることを高く評価しました。</p> <p>現在は、横浜での相談等も行い、また、男女混合ピアサポートグループを開始するなど、活動の幅を広げていますが、財政基盤や組織体制基盤を一層堅固なものとし、当事者一人一人の想いに寄り添ったきめ細かな支援が今後も安定的に継続されていくことを願っております。そして、団体の有する支援ノウハウが、県央地域を中心に、神奈川県域に波及していくことを期待します。</p>			
3	団体名	特定非営利活動法人 Small Step		
	代表者	赤荻 聡子		
	所在地	横浜市南区	活動開始時期	2018年8月
	活動分野	子どもの健全育成		
活動の概要	医療的ケア児を受け入れる保育園や小学校を見つけるのが難しく、公的サービスがない中、慢性疾患児や医療的ケア児も入園できる保育園を開園			

	選考理由	<p>医療的ケア児が地域の中で自立できる環境をつくることを目指した活動を、保育園事業にとどまらず、中間支援事業と居場所事業も含めた多面的な事業として展開されていることを高く評価しました。</p> <p>特に中間支援事業は子どもの成長に伴い必要となる取組で、子ども支援においては重要な要素です。長期的な視点に立ち、継続性にも留意して事業を運営されており、類似の課題に取り組む団体には参考になることも多いと考えます。設立5年を経て横浜市立小学校からの業務受託を始め、着実に事業が広がっていることが伺えます。</p> <p>受賞を契機として、活動がさらに発展されることを期待します。</p>		
4	団体名	かながわりトルベビーサークル pena		
	代表者	坂上 彩		
	所在地	平塚市	活動開始時期	2021年7月
	活動分野	保健、医療又は福祉の増進		
	活動の概要	県内で低出生体重児の家族会として、県に「リトルベビーハンドブック」の制作を要望、当事者の不安や悩みを和らげるための、リトルベビーママ達の居場所を提供		
	選考理由	<p>低出生体重児の家族会として、同じ立場の人が集う場やSNSでの交流の機会を設けて様々な想いを分かち合うだけでなく、小さく産まれた赤ちゃんたちについての啓発活動や情報発信に取り組んでいることを評価しました。</p> <p>団体は「かながわりトルベビーハンドブック」の作成にも携わりましたが、それ以外の活動も、小さく産まれた赤ちゃんとお母さんにとって重要なものになっていると思います。低出生体重児のお母さんは、「小さく産んでしまった」という自責の念や、成長についての心配など、子どもが生まれた直後からいろいろ考えてしまいます。活動から母親同士の横のつながりを得て、様々な想いを分かち合ったり、安心につながったりすることができるということが貴重なことだと考えました。今後も、当事者同士の居場所という機能はもちろん、広く外に向けて発信することで、低出生体重児とその家族に対する関心を高めることにつながればと思います。団体の活動も含め、より社会化していくことで低出生体重児のことが家族の問題だけにとどまらず、社会の課題と認識されます。それは多くの小さく産まれた赤ちゃんとお母さんにとって大切なことです。</p> <p>父親も活動に関わり、同じ立場の人と分かち合うことを求めているのではないのでしょうか。父親がこの活動に携わる機会を提供するなど、今後の活動がさらに広がっていくことを期待します。</p>		
5	団体名	特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター		
	代表者	斐 安		
	所在地	横浜市中区	活動開始時期	2001年4月
	活動分野	国際協力		
	活動の概要	県内の外国人家庭に対して、地域のボランティアと連携し、多言語による外国籍県民の住まい探しをサポート		
	選考理由	<p>外国人への居住支援という重要な課題に対し、専門的な活動を長期間行い、実績を積み重ねてきました。全国でも他に類を見ないユニークな活動であり、モデル性も高いと評価しました。</p> <p>特に近年のコロナ禍では、行政の制度を利用するために必要な書類の作成や手続きなどに必要な翻訳を行うなど、緊急的な事態に対して団体の持つ基盤や経験、能力が活かされたことと思います。</p> <p>また、県内の自治体や福祉関係の支援組織などとネットワークが構築されており、団体を起点として生活困窮者の支援や緊急支援につながっている様子もうかがえます。</p> <p>自治体からの受託業務などもあり、これまでの実績から十分な社会的評価を得ているとも考えられますが、今回の受賞が、さらなる協力者の獲得や活動の発展につながることを期待します。</p>		